



国土交通省近畿地方整備局

Kinki Regional Development Bureau

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所	配布日時	平成29年 3月31日（金） 14時00分
資料配布		

件 名	国営飛鳥・平城宮跡歴史公園整備・管理プログラムを策定 ～平成32年度までの整備及び管理運営の取り組み～
-----	--

概 要	○国営飛鳥・平城宮跡歴史公園では、事業実施過程の透明性確保等を図るため、公園が取り組む整備及び管理運営等を取りまとめた「国営公園整備・管理運営プログラム」（以下「整備プログラム」）を策定・公表し、事業を行っています。 ○国営飛鳥・平城宮跡歴史公園の整備プログラム（案）について、平成29年2月10日から平成29年3月9日まで意見募集を実施したところ、のべ26件（飛鳥区域6件、平城宮跡区域20件）のご意見が寄せられ、皆様から頂いたご意見を踏まえ、国営飛鳥・平城宮跡歴史公園における整備プログラムを策定しました。 ○整備プログラム及び意見募集結果については、以下のホームページよりダウンロードできます。 国営飛鳥歴史公園ホームページ http://www.kkr.mlit.go.jp/asuka/ 国営平城宮跡歴史公園ホームページ http://www.kkr.mlit.go.jp/asuka/heiho/
-----	---

取 扱 い	
-------	--

配 布 場 所	近畿建設記者クラブ 大手前記者クラブ 奈良県政記者クラブ 奈良県文化教育記者クラブ 奈良市政記者会 橿原市政記者クラブ
---------	--

問い合わせ先	国土交通省 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所 副 所 長 村田 直磯 調査設計課長 岩崎 健 電 話：0744-54-2662 (飛鳥区域) F A X：0744-54-2772 工務第二課長 日下 慎二 電 話：0742-36-4327 (平城宮跡区域) F A X：0742-36-4331
--------	---

国営飛鳥・平城宮跡歴史公園整備プログラムに関するいただいたご意見

1. 件数

飛鳥区域： 6 件 （郵便 5 件、FAX 0 件、HP 1 件）
 平城宮跡区域： 20 件 （郵便 16 件、FAX 1 件、HP 3 件）

2. 回答者属性

(1) 飛鳥区域

①年齢

10 歳代以下	0
20 歳代	0
30 歳代	0
40 歳代	2
50 歳代	2
60 歳代	2
70 歳代以上	0
計	6

②性別

男性	3
女性	2
回答なし	1
計	6

③利用状況

月に 1 回以上	1
年に数回程度	3
年に 1 回程度	0
数年に 1 回程度	1
一度も利用した ことがない	1
計	6

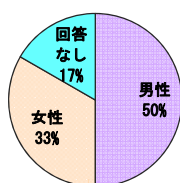
④居住地

奈良県	4
兵庫県	1
徳島県	1
計	6

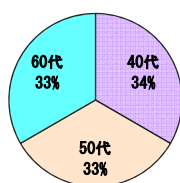
■奈良県内内訳

奈良市	2
橿原市	1
桜井市	1
計	4

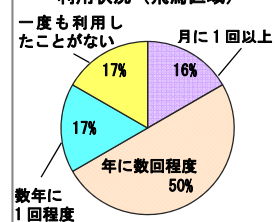
性別（飛鳥区域）



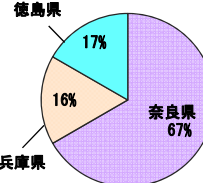
年齢（飛鳥区域）



利用状況（飛鳥区域）



居住地（飛鳥区域）



(2) 平城宮跡区域

①年齢

10 歳代以下	0
20 歳代	1
30 歳代	0
40 歳代	3
50 歳代	1
60 歳代	7
70 歳代以上	7
回答なし	1
計	20

②性別

男性	16
女性	2
回答なし	2
計	20

③利用状況

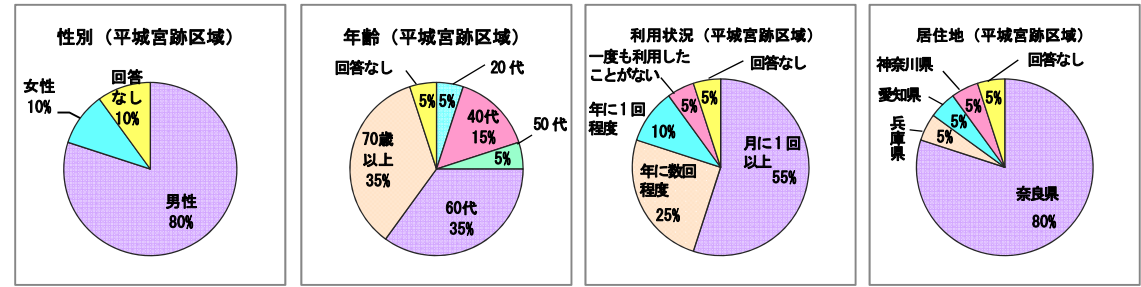
月に1回以上	11
年に数回程度	5
年に1回程度	2
数年に1回程度	0
一度も利用したことがない	1
回答なし	1
計	20

④居住地

奈良県	16
兵庫県	1
愛知県	1
神奈川県	1
回答なし	1
計	20

■ 奈良県内内訳

奈良市	12
生駒市	3
河合町	1



3. いただいたご意見の分類

(1) 飛鳥区域

1. 整備の重点方針	1-1. 公園施設の老朽化対策と合わせた機能向上の実施について(6)
	1-2. 植栽について(1)

※ 1件あたり複数のご意見をいただいている場合があるため、()内の意見の数と件数は合致しません。

(2) 平城宮跡区域

1. 公園整備の基本方針及び公園計画の概要	1-1. 事業計画の周知について(3)
	1-2. 古都奈良の景観について(2)
	1-3. 世界遺産・特別史跡としての平城宮跡のあり方について(2)
	1-4. 鉄道・道路の移設について(2)
2. 主な整備内容及び整備の重点方針	2-1. 復原事業情報館の展示について(2)
	2-2. トイレの整備について(1)
	2-3. 案内板・解説板の整備について(3)
	2-4. 園路について(1)
	2-5. 植栽について(4)
3. 管理運営の重点方針	3-1. 利用プログラム・イベントの実施について(7)
	3-2. 快適性・利便性の高い空間の確保について(3)
	3-3. 自然環境の保全とみどりの適切な維持管理について(2)
4. その他	4-1. IT技術の活用について(1)
	4-2. 平城宮跡へのアクセス・駐車場について(3)
	4-3. ペットの入場について(1)
	4-4. 遊戯具の設置について(1)
	4-5. 馬寮の復原について(1)
	4-6. 官学共同について(1)
	4-7. バリアフリーについて(1)
	4-8. 入場料について(1)
	4-9. その他公園区域外について(3)

※ 1件あたり複数のご意見をいただいている場合があるため、()内の意見の数と件数は合致しません。

ご意見の概要及び回答（飛鳥区域）

	ご意見の分類	いただいたご意見の要旨	いただいたご意見に対する回答
1. 整備の重点方針	1-1. 公園施設の老朽化対策と合わせた機能向上の実施について	○近鉄飛鳥駅からキトラ古墳周辺地区(檜隈寺跡)まで歩いて行く道が分かりにくい。飛鳥地域の周遊を促進するサインを充実するとともに、公園をとりまく事業と連携した歩道整備を進めてほしい。 ○国営公園へ行くための最寄駅からの「みちしるべ」（道案内）の整備をしてほしい。	国営飛鳥歴史公園は、明日香村内に点在して立地していることから、各地区を楽しく周遊していただける取組が重要だと考えております。公園内の老朽化サインの更新に合わせて、公園内のみならず周辺の道路や遺跡等まで表示しているサインを順次設置していくほか、最寄駅から迷わずに周遊が楽しめるよう、公園周辺にサインを設置・管理する関係行政機関等との協力・連携を一層進めて参ります。
		○小さな子供や赤ちゃんと入れるトイレがとても少ない。 ○トイレの整備を行ってほしい。まだまだ和風便器が多く、年齢の高い高齢者にとっては、身体負担が多く困っている。洋風便器に変えて欲しい。 ○「飛鳥を周遊」するのであれば、それなりの間隔（基本的に徒歩）で、トイレを設置するべきと思う。もっと飛鳥全体を見て場所を選定してはどうか。	公園施設の老朽化が進んでいることから、来園者に安全・快適に公園を利用して頂くための施設の更新を計画的に進めおり、トイレにつきましても、施設更新に合わせて洋式トイレへの改修やベビーシートの設置等に取り組んでまいります。なお、トイレの配置についても、施設の更新に合わせて、利用動線や景観、維持管理コスト等を総合的に勘案し、検討して参ります。
		○キトラ、奥飛鳥、高松塚、甘樫丘など、どこも古都をよく知る手掛かりとなり、たいへん勉強になりわかりやすかった。さすがに国営であり整備がすばらしい。	飛鳥の主要な史跡と一体的に整備された公園として、今後も、関係機関とも連携し飛鳥地域の歴史的風土や文化財の価値を伝えて参ります。
	1-2. 植栽について	○甘樫丘などスギやヒノキが多く、国営公園とわかりづらい。飛鳥時代はスギ、ヒノキではないはずである。 今、その当時の風景に戻すことは無理であるが、国営公園が景観を守る大きな役割を果たすのであれば、モミジなど広葉樹に転換することで、広く国民に知ってもらいやすい取組になると思う。 また、その景観を求めて飛鳥にやってくるお客様により、飛鳥地域への経済効果にも役立てるのではないかな。	「みどりのリフレッシュ」として、甘樫丘を中心に、来園者の方々に本来の飛鳥の眺望や里山の景観を楽しんで頂けるよう、スギやヒノキも含めて樹木の除伐や更新等を行って参ります。また、引き続き、飛鳥地域の美しい景観の情報発信も行なって参ります。

ご意見の概要及び回答（平城宮跡区域）

	ご意見の分類	いただいたご意見の要旨	いただいたご意見に対する回答
1. 公園整備の基本方針及び公園計画の概要	1-1. 事業計画の周知について	○国営公園の整備計画が平城宮跡の来訪者によくわかるよう、朱雀門、大極殿、佐伯門跡あたりに大きなパネルで計画概要、復原後の情景を紹介してはどうか。 ○大極殿院復原の情報館の存在をもっと周知してはどうか。 ○せっかく税金を使っているのだから、広報にも力を入れるべきではないか。	本公園の整備にあたっては、事業の経緯等についてのホームページでの公表や関係機関や地元自治会等への説明など継続的な周知を行って来ました。今後は、第1期開園や第一次大極殿院南門の復原工事を行う機会や、新たに整備される平城宮跡展示館等を活用し、より多くの方に周知されるよう努めて参ります。
	1-2. 古都奈良の景観について	○発掘調査による新しい見解を踏まえ、現状の施設の学問的誤りを是正すべき。奈文研（文化庁）と相談して取り組んでほしい。推定宮内省や兵部省、式部省も狭すぎる。小さな柱だけが並んでいる景色も過去を想像するには貧相で程遠く中途半端で良くない。 ○第一次大極殿も復元され、今後の整備により、さらに素晴らしい公園になるものと思う。しかし、朱雀門と大極殿院との間に設置された加工・原寸場と資材保管庫は折角の世界を壊している。	建物等復原や遺構表示等については、あらたに発掘成果が得られた場合を含め、その活用、効果を検討、吟味した上で、十分な調査研究に基づき実施して参ります。なお、推定宮内省や兵部省、式部省等、国土交通省以外の機関が設置・管理する遺構表示等の施設があり、これらに対するご意見については関係機関とも共有を図って参ります。 加工・原寸場と資材保管庫は、第一次大極殿院の建造物復原で木材の加工等を行う場として設置が必要となるものですが、これらの施設を活用した復原工事の現場公開も実施し、設置について皆様のご理解が得られるよう努めて参ります。
	1-3. 世界遺産・特別史跡としての平城宮跡のあり方について	○復原はもうこれぐらいでよい。草原として残して、あとは各人がイメージできる空間として残してほしい。 ○現在のままでよい（保安・保全は必要）。仕事帰りに電車からみるとホッとする（心身のつかれがなごむ）。	平城宮跡歴史公園は、「古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、平城宮跡の保存と活用を通じて、“奈良時代を今に感じる”空間を創出する」ことを基本理念とし、基本計画においてゾーニングを設定しています。緑地ゾーンは歴史資産の保全活用と併せて景観や自然的環境の保全、レクリエーション利用など多様な機能との調和を図る空間として位置付け、適切な管理のもとで自然的環境の保全に努め、平城宮跡全体での調和の取れた整備を進めることとしており、引き続き、現状と同様の空間として残して参ります。
	1-4. 鉄道の移設等について	○近鉄電車のルート変更に絶対反対。現状維持をしてほしい。国営公園を電車の中から見られることはすばらしいことである。 ○近鉄をどうするのか。早く計画を打ち立てて欲しい。世界遺産を横切るくらいなら、地下に埋設してもいいのではないか。 ○近鉄西大寺駅の立体化と駅周辺の整備。 ○リニアの駅を作らないこと。リニアなんて高コストで不便だけ。東京からの集客など考えるな。奈良の街が観光地になってしまう。	公園の基本計画では、平城宮跡内を横断する鉄道などについては、遺構の復原、景観の保全、来園者の安全確保等の視点から、移転・移設することが位置付けられていますが、移転・移設が長期化することもあることから、整備の途中段階でも本公園が担うべき機能を可能な限り発揮できるものとするため段階的に整備を進めることとしています。 近鉄奈良線の取扱いについて、さまざまなご意見があることは認識しておりますが、公園利用を南北に分断してしまうことや歴史的景観への支障、また市内の渋滞対策といった観点から、移設先や移設方法について奈良県を中心に検討を進めているところです。検討にあたっては、今後とも地下遺構への影響や事業費、まちづくりとの連携などの課題を踏まえつつ、幅広い観点から取りくみ、これらの整備については、公園事業と調整を取りながら、奈良県等が中心となって進めてまいります。
2. 主な整備内容及び整備の重点方針	2-1. 復原事業情報館の展示について	○情報館の展示内容は開館以来、新しい内容がない。大極殿院の復原について、西側基壇が何故つくられないかの説明もない。南門の復原でも、時宜を得た展示をしないと、建てた意味が薄れる。	復原事業情報館は、第一次大極殿院南門の復原工事の現場公開においても活用する予定であり、時々工事の状況をわかりやすく発信するための活用方法について、今後検討して参ります。
	2-2. トイレの整備について	○現在は仮のトイレであろうが、今後、バス等団体来園者のために、特に女性用トイレを充分増やしてほしい。	第1期開園後では、大型バスが利用可能な駐車場が設置される朱雀門南側（特別史跡区域外）の拠点ゾーンでバス等団体来園者の利用が多くなるものと考えており、当該エリアにある平城宮跡展示館内や奈良県整備区域において、女性用も含めて十分な数のトイレを

			設置する計画です。
	2-3. 案内板・解説板の整備について	○第一次大極院殿跡だけでなく、第一次朝堂院、内裏、第二次大極殿院・第二次朝堂院、朝集殿院跡など素晴らしい遺構が残されており、「往時の歴史・文化を体感・体験できる」よう、現地の解説板や案内ソフト(「なら平城京歴史ぶらり」等)の充実も進めて欲しい。 ○道案内が非常に少ない。 ○公園へ来る人(車)が判りやすい案内板等を必ず設けること。	平城宮跡はこれまで文化庁により整備が進められてきましたが、文化庁をはじめ関係機関とも連携・協力しながら、案内や遺構表示等の解説板について、従来のデザインを踏襲しながら、整備に併せ順次、更新や新設を行い、よりわかりやすいものとする計画です。
	2-4. 園路について	○かんぼの宿から自転車で平城京跡を横断する時、歩行者とぶつかりそうになったり、原付が走っていて危ないので改善してほしい。歩道と自転車道を分離するなどしてほしい。	平城宮跡内には国営公園事業の着手以前より利用されていた未舗装の道がまだ多く存在している状況です。国営公園を段階的に整備するにあたっては、誰もが快適に利用することができる園路となるよう、検討してまいります。
	2-5. 植栽について	○平城宮跡の樹木は奈良時代の樹形になっていない。樹木は自然の美しさを生かした管理を重視すること。自然樹形がふさわしい。奈良時代に剪定はなかったはずである。 ○朱雀門南エリアの、道路に面しているところに緑陰を作る街路樹がないので、駐車場の樹木を、樹冠まで伸ばし大きな緑陰を作るようにする。 ○万葉集にも歌われているように、奈良時代は梅や桃の木の下で遊んでいたが、現状の梅林では木の下に入れない。計画的に樹形を改善すべきである。 ○森林浴ができることを計画的に作ってほしい。 ○復原事業情報館の東側と西側南北(250m、2列)に大きくなる樹(ケヤキ等)を植えてほしい。 ○国道24号バイパスの高架や建物などが雰囲気を壊しているので、東院庭園南側柵沿いに樹木を植えて目隠しをしてほしい。 ○大きくなる木を植えることで、地下の木簡への影響は考えにくい。	公園基本計画において、植栽は眺望の確保や平城宮跡にふさわしい景観づくりを第一とし、併せ緑陰を設けるなど公園利用の快適性を実現するため、配置や密度に配慮した植栽を行うとともに、遺構面の高さを踏まえてそれが保護されることを前提として、植栽の機能確保が可能となるよう適正な管理を行うこととしています。
3. 管理運営の重点方針	3-1. 利用プログラム・イベントの実施について	○タコあげ大会や空を使った気球イベントを見てみたい。 ○生ライブ、生演芸、産直市場等を実施し、一年中何かやっていると思わせることが必要。個人的には大立山イベントは良くないと思う。 ○東区の朝堂院跡の東を模型飛行機が飛ばせるところに、朝集殿院跡東にラジコンなど模型の自動車などで競技ができ遊べるようにしてはどうか。 広い場所の活用として、全国的な競技会(将来的には世界大会に持って行く)を企画し(平城宮跡規則を作る)、実施するなど考えてはどうか。 ○観光客だけでなく地元住民にも開かれた公園にするため、緑地ゾーンを利用した定期的なイベントの開催や季節に応じた花などを植える等を行ってほしい。 ○韓国ソウルの宮殿跡のように、一日に数回、当時のセレモニーを再現したイベントがあるとよい。大学生のアルバイトなどを活用してはどうか(インターンシップ)。当時の雰囲気が体感できるものがあれば、また行きたい。 ○平城宮跡の復原計画、季節に併せた催事(古式に合わせて)、季節に合わせた花木、周辺の社寺の催事等をマトリックスにして計画を立案していかないと根	公園基本計画においては、イベントや利用プログラムとして、往時の歴史・文化を楽しむながら知ることができるよう、また、平城宮跡の知名度を向上させ、来訪のきっかけづくりや新たな魅力発見の機会など、多種多様なプログラムを企画・実施していくことが位置づけられています。 いただいたご意見については、関係者間で検討を進める中で、国営公園として開園後の行催事企画検討の際の参考にさせていただきます。

		づかないと思う。 ○この整備プログラムによって着実に平城宮の姿が復元されていくのは素晴らしいと思う。宮殿のハード面の復元に加えて、ソフト面、歴史・文化的な取組みの充実を希望する。 例えば、天平文化の発信地として、平城宮跡をもっと活用してはどうか。①正倉院展を宮跡（第一次大極殿）で開催、②東大寺等の関係諸寺との連携（法要・行事）、③新公務員の研修の場（律令国家の立ち上げの苦難を学ぶ）、等。	
	3-2. 快適性・利便性の高い空間の確保について	○ボランティアだけで清掃作業をやっているため、きれいにならない。業者等を使ってはどうか。 ○1人でも多く来て頂けるよう来場者の目線で設備等を考えてほしい。 ○来園者にとっての快適性は、現状は至って不十分である。飲食店を希望。適正な価格ですること。できればファストフード、居酒屋レベルの価格帯で。 ○資料館はわかりやすく、見やすく、行ってよかった。外国人には天井が低すぎるように思う。ボランティアガイドさんの説明がとてもわかりやすかった。	第1期開園後の区域内においては、国営公園運営維持管理業務受託者が、清掃等も含めた包括的な維持管理を行い、歩きやすい園路や広場、快適な休憩所の維持等を通じて来園者にとって快適性の高い空間を確保します。飲食施設については、朱雀門南側（特別史跡区域外）の拠点ゾーンの奈良県整備区域において、飲食・物販施設等が計画されています。 なお、平城宮跡資料館等の、平城宮跡内で国土交通省以外の機関が設置・管理する施設に対するご意見については、関係機関とも共有を図って参ります。
	3-3. 自然的環境の保全とみどりの適切な維持管理について	○緑地ゾーンの現状に手を入れ、おかしな建物やモニュメントを作らないこと。 ○秋は広い平城宮跡ススキが美しいので生かし、セイタカアワダチソウは駆逐する。	緑地ゾーンは、歴史資産の保全活用と併せて景観や自然的環境の保全、レクリエーション利用など多様な機能との調和を図る空間として位置付け、適切な管理のもとで自然的環境の保全に努め、平城宮跡全体での調和の取れた整備を進めることとしています。
4. その他	4-1. I T技術の活用について	○若い人でも学べるようにAR技術を利用したガイド・解説をスマホで出来るように。外人にも便利はらずだし人件費もいらない。	本公園の飛鳥区域において、VR技術を使って歴史的・文化的資産を可視化する解説を行っており、大変好評を得ています。平城宮跡区域においても、今後、様々な技術を用いたガイド・解説手法についても検討して参ります。
	4-2. 平城宮跡へのアクセス・駐車場について	○来場者の車駐車場は何処へ設けるのか。広さ等を明確にしてほしい。 ○朱雀門北西に広い無料の駐車場が廃止された。グロッとバスは原則的に休日のみで、アクセスを考えて頂きたい。 ○市内循環バスの拡充を期待。ルートは西の京へも向ってほしい。	朱雀門南側（特別史跡区域外）の拠点ゾーンの奈良県整備区域において駐車場が整備される予定であり、台数は普通車50台、大型バス20台と聞いております。 なお、公共交通で来園しやすいよう、関係機関と協力し、路線バス等使いやすいアクセスを確保できるよう努めて参ります。
	4-3. ペットの入園について	○あちらこちらに犬の糞が置き去りにされているのを見かける。平城宮跡の中は犬（ペット）等の散歩禁止にしたらどうか。	平城宮跡では、市街地に囲まれた広大なオープンスペースとして、地域住民の日常的な多目的利用の場として幅広く活用されてきたことから、今後に犬等の散歩を禁止することは難しいと考えておりますが、特別史跡・世界遺産である歴史・文化資産としての適切な保存・活用のため、第1期開園後は、ペットの散歩等の利用をされる方々に一層のマナーの啓発や利用指導も含めた管理に努めてまいります。
	4-4. 遊器具の設置について	○ブランコ、すべり台、ジャングルジム等で、なるべく木材を使用した遊器具を設置してくれたら、もっとたくさん子ども達が親しんでくれるのではないかな。	本公園では、歴史公園という性格上、遊具施設を設置する計画はありませんが、子ども達にも楽しんで頂けるような歴史プログラムや昔遊び、自然素材を使ったクラフトなどの計画を進めており、子育て世代の方々をはじめとした多様なニーズにお応えできるよう努めてまいります。
	4-5. さらなる復原について	○馬寮を復原し、馬10頭を飼育してほしい。 玉手門と近鉄線路の間の馬寮跡に復原し、飼育の馬は、平城宮跡内を毎日の巡視(奈良時代の服装)に使用し、今後の催しにも馬を活用する。 ○最終的に朱雀大路をこの幅で延伸して羅生門を作ってほしい。大宮通から南は	平城宮跡歴史公園は、「古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、平城宮跡の保存と活用を通じて、“奈良時代を今に感じる”空間を創出する」ことを基本理念とし、基本計画においてゾーニングを設定しています。 第一次大極殿院や、朱雀門、第二次大極殿院、東院庭園等の建物等復原や遺構表示等の

		車も通したらいいし、何ならこの辺りに近鉄の平城宮駅を作ればいい。	行われている特別史跡区域の中枢部を「シンボルゾーン」として位置づけ、復原された建物等を中心とする歴史資産を最大限に活用した空間づくりを行うこととしております。なお、馬寮については復原の計画はありませんが、奈良時代を体験・体感できる展示や催し等を企画してまいります。
	4-6. 官学共同について	○奈良教育大や奈良女子大と官学共同して平城宮跡を良くしてほしい。	国営公園の適切な整備・管理運営にあたっては、特別史跡である平城宮跡の特性や多様な利用状況から、各分野の有識者や研究機関等との協力・連携が有効となる場合が考えられ、その時々課題に応じて適切に対応してまいります。
	4-7. バリアフリーについて	○高齢化を考えるとバリアフリーは必要。	国営公園として整備することが閣議決定される以前より設置されている園路について、段差を生じている箇所のバリアフリー化などの機能向上を行うとともに、トイレや休憩所などについても高齢者など様々な来園者が快適に過ごせる整備を進めます。
	4-8. 入園料について	○維持管理のため、入園料を取ってもよい。すばらしく整備されており、「税金」よりも「入園料」が適切だと思う。	平城宮跡では、市街地に囲まれた広大なオープンスペースとして、地域住民の日常的な多目的利用の場として幅広く活用されており、通勤・通学による通過利用も多いことから、第1期開園後も原則として公園区域への入園料はとらないものと考えております。

国 営 飛 鳥 歴 史 公 園

整備・管理運営プログラム

今後取り組んでいく平成 32 年度までの整備及び管理運営方針

はじめに.....	1
本公園のストック効果.....	3
基本方針.....	5
整備の重点方針.....	6
管理運営の重点方針.....	7
公園事業の効果.....	9

平成 29 年 3 月

国土交通省 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所

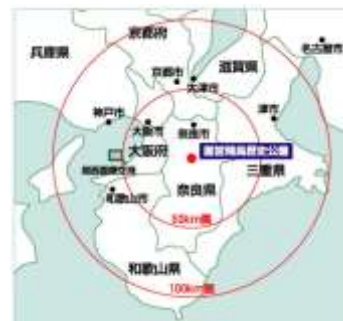
“日本人の心のふるさと”を目指して

国営飛鳥歴史公園は、我が国古代の政治と文化の中心地として栄えた飛鳥地方において、その豊かな自然と文化的遺産の保護、活用を図る一環として、「日本人のこころのふるさと」をテーマに、国土交通省によって整備された公園です。

本公園では、より多くの方が飛鳥を訪れ、その豊かな自然と深い歴史を感じ取っていただけるよう、周辺の史跡や田園景観と調和した整備を行っています。現在は5つの地区で構成され、年間80万人以上の方に来園いただいています。

この整備プログラムは、社会資本整備重点計画の計画期間にあわせ、今後国営飛鳥歴史公園が取り組んでいく平成32年度までの整備及び管理運営に関する重点項目等を策定し公表するものです。なお、本プログラムは今後の社会情勢を踏まえ、必要に応じ見直していきます。

■広域位置図



■位置

奈良県高市郡明日香村

■開園面積

祝戸地区	7.4ha
石舞台地区	4.5ha
甘樫丘地区	25.1ha
高松塚周辺地区	9.1ha
キトラ古墳周辺地区	13.8ha
開園面積合計	59.9ha



飛鳥観光の代表的な場所でもある石舞台地区



稲刈りの様子を見守る祝戸地区



展望台から飛鳥地方を一望できる甘樫丘地区

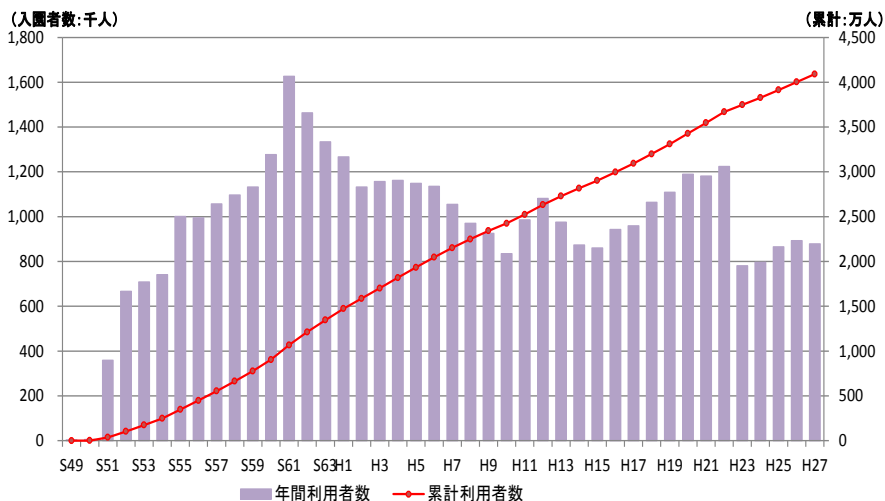


高松塚古墳を有する高松塚周辺地区



飛鳥の新しい観光拠点となったキトラ古墳周辺地区

■入園者数の推移



■供用の経緯

昭和45年	祝戸・石舞台・甘樫丘地区の3地区を国営公園として閣議決定 翌年より整備着手
昭和49年	祝戸地区開園
昭和51年	石舞台地区開園 高松塚周辺地区を国営公園として閣議決定
昭和55年	甘樫丘地区開園
昭和60年	高松塚周辺地区開園
平成6年	全面概成開園式典
平成13年	キトラ古墳周辺地区を国営公園として閣議決定
平成28年	キトラ古墳周辺地区開園

日本の“古都”飛鳥と国営飛鳥歴史公園

明日香村は村内全域が古都法*による歴史的風土保存地区、風致地区などに指定された“日本の古都”です。

数多くの宮跡・寺社跡・古墳などの遺跡を有し、暮らしの営みの中で受け継がれている飛鳥の風景は、訪れる人に感動を与えます。平成 19 年には「飛鳥・藤原の宮都と関連資産群」が世界遺産の暫定リストに登録、平成 22 年には「奥飛鳥の文化的景観」が国の重要文化的景観に選定されるなど、近年“古都”飛鳥の価値はますます高まっています。

国営飛鳥歴史公園は、飛鳥の豊かな自然と文化的遺産の保護、活用を図る一環として、国土交通省によって整備されている公園です。開園以来、飛鳥の風土や景観と調和した整備を図るとともに、地域の方々や飛鳥ファンとともに魅力ある公園づくりに取り組んでいます。

*古都法：正式名称は、『古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法』といい、奈良や京都、鎌倉など日本を代表する古都の歴史的・文化的遺産と、それらと一体となった自然的環境のすべてを「歴史的風土」と捉え、その風土・環境を開発の波から守ることを目的として、昭和 41 年に公布・施行された法律です。



訪れる人に「公園」と「飛鳥」を一体に感じていただけるよう、本来の地形を活かしながら、フェンスや柵、大きな看板などは設けず、自然素材を用いるなど周辺の景観に溶け込むよう配慮しています。



地域の方々との協働による森づくり活動を母体に誕生した公園ボランティア「飛鳥里山クラブ」。現在は約 300 名が参加し、飛鳥の歴史的風土を楽しく学び、守り、育むための活動に携わっています。

各地区の概要

国営飛鳥歴史公園は、奈良県高市郡明日香村に位置しており、祝戸地区、石舞台地区、甘樫丘地区、高松塚周辺地区、キトラ古墳周辺地区の 5 地区からなります。

いずれの地区もそれぞれの地形や眺望、植生、立地条件、隣接する古墳や遺跡などの資源を活かしながら、周辺の風土・景観と調和するように整備を図っています。また、明日香村内の史跡や拠点施設を巡る「周遊歩道」と一体的に利用され、飛鳥周遊のネットワークを形成しています。



祝戸地区

美しい棚田の風景が楽しめる、奥飛鳥への玄関口となる地区。地区内には、休憩や集会などにも利用できる宿泊研修施設「祝戸荘」があります。

石舞台地区

憩いと賑わいの拠点となる地区。蘇我馬子の墓と伝えられる石舞台古墳を中心に、棚田の地形を活かした芝生広場が広がります。

甘樫丘地区

国営飛鳥歴史公園の北のエントランスとなる地区。大和三山を望む展望の地であり、「万葉植物園路」での散策も楽しめます。

高松塚周辺地区

古代飛鳥人の姿が蘇る、極彩色の壁画を持つ高松塚古墳を抱える地区。情報案内施設「国営飛鳥歴史公園館」や「高松塚壁画館」があります。

キトラ古墳周辺地区

五感を使って楽しみながら飛鳥の歴史や文化、風土について学ぶ「体験的歴史学習」を展開します。平成 28 年 9 月に開園しました。

本公園のストック効果

● 飛鳥地域の歴史的風土の保存と普及啓発

本公園は、特別史跡石舞台古墳や特別史跡高松塚古墳などの飛鳥地域を代表する史跡や、飛鳥地域の歴史的風土が保存された地域を一望できる展望地など、我が国の重要な場所を、周辺地域と一体的に開発から守り、永く後世の人々に伝えていく役目を果たしています。また、飛鳥に生息・生育する希少種の保護・育成や里山の維持管理、公園の周囲の景観と調和した公園づくりを行い、歴史的風土の保存に貢献しています。

歴史的風土の保存だけでなく、地域と連携し、公園のイベントに合わせた蹴鞠などの披露や、綱掛神事などの観覧をコースに含めた公園の内外をつなぐウォーキングツアーを実施するなどして、より多くの来園者に、伝承芸能や美しい景観に触れていただける機会を積極的に提供しています。

加えて、公園ボランティア「飛鳥里山クラブ」を組織して里山管理や公園案内を実施し、将来を担う子供達に向けて国蝶オオムラサキの飼育や放蝶体験、歴史体験プログラムを実施するなどして、様々な世代に飛鳥の歴史的風土の保存の意義や魅力を伝えています。



飛鳥地域随一の眺望を有する甘樫丘



甘樫丘で実施しているオオムラサキの放蝶会

● 飛鳥地域の観光拠点

大化の改新で有名な蘇我入鹿の祖父・蘇我馬子の墓と言われる特別史跡石舞台古墳や、国宝高松塚古墳壁画が発見されたことで有名な特別史跡高松塚古墳などは、毎年多くの方が訪れる飛鳥地域随一の観光地となっています。

一方で、飛鳥地域には現存する往時の建造物が無いことなどから、来訪者にとってその価値が分かりにくいという面があります。そこで、本公園では、バーチャル技術を使って歴史的・文化的資産を可視化する解説を行っており、大変好評を得ています。

また、本公園は、飛鳥地域でまとまったオープンスペースを提供出来る数少ない場所であり、様々なイベントを実施できる貴重な空間となっています。例年、明日香村で実施している「光の回廊」の主要会場となっているほか、新たに「古都飛鳥文化祭」や食のイベントの会場ともなり、多くの来園者を集めています。



「バーチャル飛鳥京」古代飛鳥を再現した3D映像が楽しめる



「光の回廊」園内の芝生広場を大きく使った「光の地上絵」や、古墳のライトアップなどが行われる

● 飛鳥地域の周遊促進

本公園では、飛鳥地域を訪れる人の玄関口として、高松塚周辺地区に国営飛鳥歴史公園館を設置し、ジオラマやパネル、映像などで飛鳥地域の見所を紹介しています。公園内はもとより、公園の外にあるたくさんのおすすめを紹介し、訪れる方を公園の他の地区や飛鳥地域全体への周遊に誘っています。

また、明日香村など飛鳥地域の地方公共団体と連携した統一的なサイン整備を図り、飛鳥を訪れる人が迷わず楽しめるように支援しています。そして、飛鳥地域を周遊する方々には、途中で休息できる場所が不可欠であることから、本公園が快適な芝生広場や、四阿、木陰、清潔なトイレなどを提供して余暇活動を支援し、飛鳥地域の観光利用を促進しています。



飛鳥観光の玄関口として地域の観光情報の発信を行う「国営飛鳥歴史公園館」



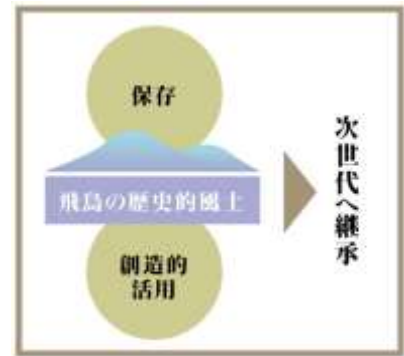
石舞台古墳に隣接する芝生広場

体験・学習・交流・協働を通じて、 歴史的風土の保存と活用を図り、 次世代に継承する公園づくりを目指します。

古都飛鳥における歴史公園としてのテーマを踏まえ、今後取り組んでいく平成 32 年までの公園の整備・管理運営においては、周辺の山並みや飛鳥川などの自然と、古墳や遺跡、棚田や集落などの人文的環境が一体となった、飛鳥の歴史的風土の保存を第一とします。

その上で、来園者の皆さまに飛鳥の歴史や文化を体験・学習できる場や機会を提供していくことにより、飛鳥の歴史的風土の創造的な活用を図ります。

また、来園者や地域の方々との交流・協働のもと歴史的風土を後世に継承していくための公園づくりを推進します。



保存と活用による歴史的風土の継承イメージ

「歴史的風土」とは

わが国の歴史上意義を有する建造物、遺跡等が周囲の自然的環境と一体をなして、古都における伝統と文化を具現及び形成している土地の状況をいいます。

整備・管理運営プログラム策定の視点～保存と活用の方向性

歴史的風土 の保存

祝戸・石舞台・甘樫丘・高松塚周辺・キトラ古墳周辺の 5 地区について、各地区の地形、植生、立地および隣接する史跡等の歴史的資産を考慮しながら、周辺の歴史的風土との調和を目指した景観づくりを引き続き行います。



公園と周辺の田園風景（日本の棚田百選・稲淵の棚田）が一体となった景観（祝戸地区）

歴史的風土 の創造的 活用

キトラ古墳周辺地区については、キトラ古墳や檜隈寺跡を題材とした体験的歴史学習の場を提供するとともに、歴史的風土の保存への理解と多様な主体の交流・協働の場となる拠点施設として活用を図ります。

その他の 4 地区については、「飛鳥らしい」景観を広く国民共有の資産として活用するとともに、各地区における展望・散策・史跡鑑賞などの機能を高めるための施設の更新のあり方を、来園者の皆さまのニーズ等を踏まえながら検討します。



史跡檜隈寺跡（奥の樹林）と園内の段々畑（キトラ古墳周辺地区）

● 公園施設の老朽化対策と合わせた機能向上を実施します

公園開園から 40 年以上が経過し、公園施設の老朽化が進んでいることから、来園者に安全・快適に公園を利用して頂くための施設の更新を計画的に行うとともに、橋梁の機能向上や飛鳥地域の周遊を促進するサインの設置、トイレの改修等、更新と合わせて施設の安全性や利便性の向上を図ります。



(改修前)



(改修後)

歩行者の安全性向上のための橋梁高欄の改修（イメージ）



より分かりやすいサインの整備イメージ



洋式トイレ整備

● 公園をとりまく状況の変化に対応した機能向上等

キトラ古墳周辺地区開園後の利用動向、文化庁による高松塚古墳壁画修理の進捗や保存管理・公開施設の検討状況、石舞台地区における県道桜井明日香吉野線の整備等、公園をとりまく状況の変化に対応して、公園の機能向上や施設の再配置を検討します。

● 飛鳥の歴史的風土を適切に維持します

飛鳥の主要な史跡と一体的に整備された公園として、適切な維持管理により、それらの史跡や周囲の景観とも調和した公園づくりを進めるとともに、飛鳥に生息・生育する希少種等の保護・育成など、自然環境の保全にも努めます。

また、文化庁や飛鳥地域の地方公共団体、飛鳥地域で活動する諸団体との連携のもと、飛鳥地方の歴史的風土や文化財の価値を伝え、保存・活用に関する普及・啓発に取り組みます。



史跡と周辺環境の調和に配慮した高松塚古墳周辺地区（星宿広場）



公園ボランティア「飛鳥里山クラブ」によるオオムラサキの飼育（左）やササユリの育成（右）



文化庁と国営公園等が協力して実施されるキトラ古墳壁画体験館四神の館でのキトラ古墳壁画の公開

● 安心して来園者が利用できるよう施設の修繕等を計画的に行います

施設の老朽化による公園の機能低下を予防し、来園者が公園を安心して快適に利用できるよう、園路や広場、トイレ等の建築物等、公園内の施設の修繕等を計画的に実施します。



園路の修繕



転落防止柵の修繕



トイレ棟の明るさの改善

● 公園本来の眺望や里山の風景を回復するためみどりのリフレッシュに取り組みます

古都飛鳥の史跡などと調和して歴史的風土をつくりだす里山林や、園内の各所を彩る修景木などのみどりが公園の大きな特色となっていますが、開園から40年以上が経過し、樹木が大径木化、老木化することで、公園内の眺望や見通しを遮ったり、十分な生育空間が得られないことで不健全な樹木が増加する等の課題が生じてきています。また、近年はなら枯れの被害も発生しています。このため、甘樫丘を中心に、来園者の方々に本来の飛鳥の眺望や里山の景観を楽しんで頂けるよう、樹木の除伐や更新等を行います。また、飛鳥の風景とも調和した公園を彩る花修景を進めます。



展望台における眺望の確保
（左：改善前の展望台、右：改善されて大和三山が見えるようになった展望台）



適切に管理された里山の風景



飛鳥の風景と調和した花修景

● 地域の観光拠点として、一層の利用促進に取り組みます

キトラ古墳壁画体験館四神の館、石舞台古墳、高松塚古墳や飛鳥随一の眺望点である甘樫丘など飛鳥地域の観光拠点を有する公園として、これらの利用促進を図るだけでなく、文化庁や飛鳥地域の地方公共団体等と連携し、来園者の飛鳥地域全体へのさらなる周遊を誘導します。また、地域と連携したイベントの開催や、多言語音声ガイドペンの貸し出しなど、多種多様な利用ニーズに対応します。



四神の館展示室



公園イベントでの地域の文化団体による飛鳥蹴鞠の披露



関係機関と連携して制作したポスター。公園の開園に合わせて地域の魅力を再度PR。

● 飛鳥ならではの「体験」を提供します

勾玉づくりや土器づくり、農体験など、飛鳥の歴史や文化、自然などを題材とし、これらを楽しみながら学んで頂ける飛鳥ならではの体験プログラムを実施します。特に、平成28年9月に開園したキトラ古墳周辺地区では、休日毎に体験プログラムを実施し、学習やレクリエーションとして飛鳥地域での「体験」を求める方々のニーズに応えます。



勾玉づくり体験



古代ガラス製作体験



農体験

● 参加型の公園づくりを推進します

地域の方々や飛鳥ファンに大切にされる公園を目指し、ボランティア活動の参加機会や活動内容の充実、地域と連携したイベントプログラムの実施などを図ります。



公園ボランティア「飛鳥里山クラブ」による間伐材を活用した炭づくり（甘樫丘地区）



土器づくり



地域と連携したイベントの実施

公園事業の効果

平成３２年までの間に上記の施策を実施することにより、次のような事業効果が見込まれ、ストック効果をより一層高めます。

- 飛鳥を代表する史跡などを公園が有することで、それらの場所を周辺地域と一体的に開発から守り、また飛鳥に生息する希少種・在来種の保護・育成や、里山景観の再生・創出を行うことなどにより、飛鳥地域の歴史的風土の保存や普及啓発が推進されます。
- 開園したキトラ古墳周辺地区などにおける体験的歴史学習の充実により、地域の新たな観光拠点となるとともに、地域と連携した様々なイベントなど、飛鳥の歴史や文化を楽しむことができる飛鳥ならではの体験を提供することにより飛鳥地域の魅力を向上し、観光振興に寄与します。
- 公園区域の周囲に広がる飛鳥地域の豊かな資源の情報発信や、安全・快適で過ごしやすい空間の提供を行うことにより、地域の周遊観光が促進されます。

国営平城宮跡歴史公園 整備・管理運営プログラム

今後取り組んでいく平成 32 年度までの整備及び管理運営方針



はじめに……………	1
基本方針……………	3
整備の重点方針……………	4
管理運営の重点方針……………	6
公園事業の効果……………	7

平成 29 年 3 月

国土交通省 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所

● 公園整備の基本方針

国営平城宮跡歴史公園は、「古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、平城宮跡の保存と活用を通じて、“奈良時代を今に感じる”空間を創出する。」ことを目指し、以下の方針のもと、平城宮跡及びその周辺一帯の整備を進めていきます。

- ① 特別史跡・世界遺産である歴史・文化資産としての適切な保存・活用
- ② 古代国家の歴史・文化の体験・体感
- ③ 古都奈良の歴史・文化を知る拠点づくり
- ④ 国営公園として利活用性の高い空間形成

● 公園基本計画（平成 20 年策定）



シンボルゾーン、拠点ゾーン、緑地ゾーン、外周ゾーンにゾーニング

平城宮跡を良好な状態で保存するとともに、 往時の歴史・文化を体感・体験できる公園を目指し て、段階的に整備を進めます。

貴重な歴史・文化的資産である平城宮跡を確実に保存し、良好な状態で後世に伝えるとともに、誰もが楽しみながら古代国家の歴史・文化を体感・体験できるよう、早期の開園に向けて、拠点ゾーンなどの整備を進めるとともに、第一次大極殿院の建造物の復原を行います。

● 主な整備内容

公園整備においては、利用サービスの向上を図りつつ、広がりのある空間で往時の宮（都）の歴史・文化をわかりやすく体感・体験できる場として、

- ・宮跡のガイダンスや公園の利用案内を行う拠点ゾーンの施設整備
- ・朱雀門から第一次大極殿院に至る宮の中心軸線の確保
- ・宮の中心を成す第一次大極殿院の建造物復原

を優先し、周辺観光地との周遊促進を目的として設置される奈良県整備区域の交通ターミナル等の施設整備と進捗を合わせて整備を図ります。

● 整備・管理運営プログラム策定の視点～保存と活用の方針

平城宮跡の 保存

平城宮跡における歴史・文化資産の保存・活用、景観や自然的環境の保全、レクリエーション利用、災害時の避難場所など多様な機能との調和の取れた公園の整備を進めていきます。

整備にあたっては、関係機関との綿密な協力のもと既往の調査結果や新たな発掘調査の成果をもとに、遺構の保存に配慮した設計を行うとともに、地下遺構を傷つけないように細心の注意を払いながら工事を行います。



平城宮跡の 段階的な 整備と活用

関係機関との連携のもと、建造物の復原と周辺空間の一体的整備により、来園者が往時の空間を感じながら、安全・快適に利用できる公園整備を段階的に進めます。

さらに、工事中の情報案内や施設の活用を工夫することで整備の進行状況を明らかにするとともに、現在まで伝承されるいにしへの技術のすばらしさを発信します。

● 第一期開園に向けて拠点ゾーン等の整備を行います

平城宮跡歴史公園の第一期開園に向け、本公園の正面玄関となる拠点ゾーンに、平城宮跡展示館の建築及び展示施設の整備を行います。

平城宮跡展示館では、本公園の見どころ紹介や、利用案内情報の提供とともに、平城宮跡の歴史やその価値についてのわかりやすいガイダンスを行い、来園者を奈良時代にいざないます。



平城宮跡展示館の整備イメージ（左：建物外観、中・右：施設内）

また、朱雀門に面した朱雀大路及び二条大路跡の園路広場の整備を行います。

朱雀大路は、かつての平城京を南北に貫くメインストリートで、道幅は 74mもありました。二条大路は、朱雀大路に次ぐ規模の道で、平城宮の南側に位置し、平城京を東西に通っていました。

これら2つの大路を復元的に整備することにより、往時の平城京の広がりやスケール感を体感することができるようになります。



朱雀大路の整備イメージ（奥は朱雀門）



二条大路の整備イメージ（奥は若草山・春日山）

（参考）

国営公園に隣接した朱雀大路西側では、奈良県が公園利用者の利便性向上を目的とした交通ターミナルや飲食物販等の施設整備を行い、古都奈良の歴史・文化を知る拠点づくりとしての機能を備えます。



朱雀大路西側地区の奈良県施設整備イメージ(施設外観)



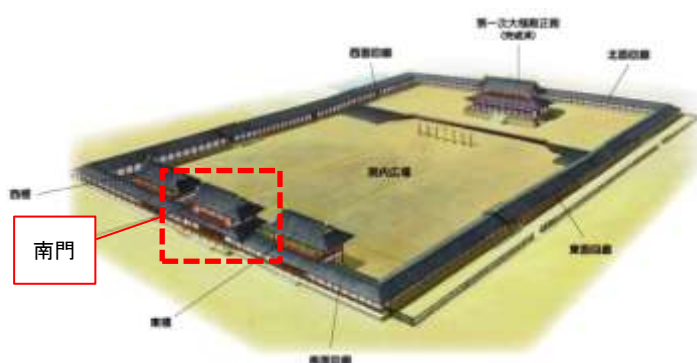
朱雀大路西側地区の奈良県施設整備イメージ(施設内)

● 第一次大極殿院^{なんもん}南門の復原工事に着手するとともに、現在まで伝承される いにしへの技術のすばらしさを発信します

本公園のシンボルゾーンにおいて、往時の平城宮の壮大・壮麗・荘厳さを体感できるよう、これまでの発掘調査や様々な研究に基づき、第一次大極殿院南門の復原工事に着手します。

これにより、かつて即位の礼や朝賀の儀などの国家的な儀式が執り行われた、平城宮のなかでも特に重要な区画である第一次大極殿院の復原が進みます。

また、整備が長期にわたる復原工事について、時々々の状況を、工事現場の公開（魅せる現場）や復原事業情報館の展示などで見て頂き、現在まで伝承される伝統技術のすばらしさを広く発信するとともに、地域の観光振興に貢献します。



第一次大極殿院復原イメージ



南門の現場公開（イメージ）

● 誰もが使いやすい公園づくりを進めます

国営公園として整備することが閣議決定される以前より設置されている園路について、段差を生じている箇所のバリアフリー化などの機能向上を行います。

また、平城宮跡展示館の展示や案内・誘導サインの多言語化、平城宮跡展示館におけるWi-Fi環境の整備を図り、インバウンドなど多様な来園者のニーズに対応します。



既存の園路の更新（左：更新前、右：更新後）

● 往時の歴史・文化を楽しみながら知ることができる管理運営を推進します

平城宮跡にしかない施設や空間等を積極的に活用した利用プログラム等の実施により、国内外、年齢を問わず、来園者の誰もが楽しみながら往時の歴史・文化に触れ、親しみ、その内容を知ることのできる管理運営を行います。

また、継続的な発掘調査・研究成果等を活用し、利用プログラム等に反映していくなど、折々の状況に応じた柔軟な管理運営を行います。

さらに持ち込みによるイベントの実施等に際して利用調整を行うことで、様々な来園者が楽しく快適に過ごせるようにします。



発掘調査（奈良文化財研究所）の現場公開

● 来園者にとって快適性・利便性の高い空間を確保します

歩きやすい園路や広場、快適な休憩所の維持等を通じて、来園者にとって快適性の高い空間を確保します。

また、本公園の利用拠点である平城宮跡展示館の運営にあたっては、平城宮跡内の文化庁や奈良県等関係機関による施設の利用情報や見どころ紹介等を行い、来園者の利便性を高めます。



園内の休憩施設

● 自然的環境の保全とみどりの適切な維持管理を行います

平城宮跡に育まれた自然的環境を保全するとともに、その魅力を来園者に発信します。また、園内の花木等を適切に維持管理し、園内に彩りを加え、平城宮跡の季節に応じた魅力を引き出します。これらを通して、良好な景観を形成し、将来に大切に引き継ぎます。



平城宮跡に育まれた自然的環境

公園事業の効果

- 関係機関と協力しながら地下の遺構に配慮した整備や適切な維持管理を行うことで、平城宮跡の貴重な遺構が保存されます。また、公園として市街地の中に残る自然的環境の保全に努めることで、これらが将来に引き継がれます。
- 周辺の歴史的風土と一体となって往時の雰囲気を感じられる空間整備を行うことで、より幅広い層に向けて平城宮跡への理解や関心が高まるとともに、平城宮跡への来訪が促進されます。特に、第1期開園として拠点ゾーン等が供用開始されることにより、今まで以上に平城宮跡が訪れやすい場所になるとともに、来園者に平城宮跡とその周辺の魅力が伝わることで、地域への来訪者数の増加や周遊観光に貢献します。
- 平城宮跡の復原建物や遺構表示などの歴史的景観を活用した季節ごとのイベントについて、適切な利用調整が図られます。



①遺構の確認と確実な保存 ②平城宮跡に遺された自然 ③往時の空間を感じられる整備
④安全・安心で快適に過ごせる緑地 ⑤適切な利用調整の上で実施されるイベント